

総合認証機関

JACO

スマートコミュニティの未来のために。

JACOはスマートコミュニティ事業の進展をサポートする「総合認証機関」です。

JACOは、スマートコミュニティの実現に不可欠な「環境マネジメントシステム」を始め、「エネルギーマネジメントシステム」「アセットマネジメントシステム」などをトータルサポート。スマートコミュニティを計画される開発事業者様、自治体様、またシステムを供給するベンダー事業者様を支援します。

■環境マネジメントシステム:ISO 14001

■エネルギーマネジメントシステム:ISO 50001

■アセットマネジメントシステム:ISO 55001

スマートコミュニティ指標による是正・継続的改善/アセスメント/リスク対応(改善計画)

環境 エネルギー 上下水道 通信 交通 土木建築 セキュリティ 災害と危機

リスクアセスメント

スマートコミュニティのプロセス、アセット、ライフサイクル

株式会社日本環境認証機構(JACO)

■本社 〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル TEL.03-5572-1722

■関西支社 〒530-0003 大阪府北区堂島2-1-7 日販堂島ビル TEL.06-6345-1731

<http://www.jaco.co.jp/>

省エネでコンパクトな環境配慮型製品

Slim eco LED照明&T5スリム蛍光灯

高効率LED採用 高周波点灯専用T5蛍光灯採用

天井照明 省ライン

天井照明 省ライン

商業施設・オフィス・工場等の省エネは照明器具から

プリンス電機株式会社

ISO9001・ISO14001・OHSAS18001 認証取得

横浜型地域貢献企業認定取得

本社 TEL 045(501)4722 FAX 045(501)4730

スマートコミュニティの形成へ求められる視点

低炭素社会や循環型社会などに代表される環境配慮型社会への取り組みと、東日本大震災に端を発した自然災害やエネルギーセキュリティへの関心が高まる中で、これらに対応したまちづくりのあり方として、スマートコミュニティが注目されている。スマートコミュニティに対する関心は年々高まっており、その具現化に向けたアプローチと実現に向けた視点を紹介する。

スマートコミュニティを構成するストック人、モノ、情報、サービスを論じる際には、・フロー全体を包含し、エネルギー、廃棄エネルギーの問題のみならず、物などのフローを考慮しながら、都市・地域なきである。具体的には、しつ、地域内にコミ

ユニティビジネスを創出する。外におけるスマートコミュニティプロジェクトを構築していくこと。その結果、地域外にモバエネルギーを供給する新たな仕組み、リユースの「単品」を目的に、国内プロジェクトを中心にスマートビルディングの構築が期待されることにより、「市民不在」の建築支援を行っている。スマートビルディングを活性化する。その中で、再生可能エネルギーを活用したラックアップ事業が立ち上がりつつある。その進展していることなど、のプロジェクトの実例をいくつか紹介したい。

筆者らは地域で、共

早稲田大学環境・エネルギー研究科 准教授 小野田 弘士

再生可能エネ「共有」



太陽・地中熱や木質バイオマス活用 期待高まる地域発プロ

写真1 本庄早稲田における太陽熱・地中熱システム

写真2 埼玉県秩父市のバイオオイル噴霧装置

写真3 「かぶちゃん農園」木質バイオマスガス化発電

市民ニーズに密着 新たな経済効果創出へ

写真4 「超軽量小型モビリティULV」(空気エンジンモデル)

筆者が所属する早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科が展開する埼玉県本庄早稲田地区では、本庄スマートエネルギータウンプロジェクトが産学官連携により進行している。太陽熱・地中熱を活用した熱源を共有インフラとして地域エネルギー・会社が保有し、複数の飲食店にエネルギーを供給する地点熱供給事業が2015年3月に本格稼働した(写真1)。

また官民連携や産業間連携を考慮した食品系廃棄物のメタン発酵事業の実証事業が15年4月に始まった。今後、まちづくりの進展に合わせた「成長型」のスマートコミュニティの実現を目指している。

再生可能エネルギーの導入量の拡大と地域振興、産業振興との両立を実現できるポテンシャルを持つ木質バイオマス。その利活用を目的としたプロジェクトも複数の地域で具体的な動きが出始めている。

新名神高速道路「未来につなぐ信頼の道」 環境にやさしい道路整備を目指して

NEXCO西日本は、1963年の栗東IC～尼崎IC間開通以来、日本の産業と社会を支え続けてきた名神高速道路を多重化し、日本の大動脈である高速道路の信頼性を格段に高めるべく、新名神高速道路(大津JCT～神戸JCT)の整備を進めています。その中で、将来にわたり自然と共存共生していく高速道路の自然環境保全に努めています。

生物多様性の保全に向けた取り組み

新名神高速道路 高槻JCT～神戸JCT間では、緑豊かな大阪府・兵庫県域に新名神を建設するにあたり、その影響を最小限にとどめ自然環境保護の取り組みをより確かなものとするために、NEXCO西日本だけでなく、地域住民の皆様、地域文教施設、学識経験者、NPO・自然保護団体の方々と連携・協働し、みんなで自然を守っていきます。

ホタルの幼虫を放流している様子

鶴殿ヨシ原の環境保全に向けた取り組み

新名神高速道路 八幡JCT～高槻JCT間が通過する淀川河川敷「鶴殿ヨシ原」には、雅楽で演奏される箏篋(ひちりき)の蘆舌(ろげつ/吹き口に取り付ける薄片で西洋管楽器のリードに相当)に用いられる良質なヨシが採取される箇所があります。NEXCO西日本では、植物学や地下水の専門家などから構成される検討会を設置し、箏篋用ヨシの生育調査や地下水・土壌調査などを実施しています。今後も、調査・試験の方針や結果などの情報を随時発信し、十分な説明に努めています。

上: 淀川河川敷 下左: 箏篋 下右: 鶴殿ヨシ原

SIC: スマートインターチェンジ

みち、ひと、未来へ。 NEXCO 西日本